

事業番号	事務事業名	乗合タクシー運行対策事業費	所管課名	まちづくり課	令和 2 年度課長名	小林 英将
00268	政策名	4 快適な生活環境の里づくり	係名	地域対策係	担当者・シート作成者	日笠 雄策
	施策名	49 公共的交通機関の充実	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度 ) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域から勝山駅までの乗合タクシーの運行契約により、運行費について補助金の交付する。 運行委託契約、補助金の交付決定、補助金の支払い(月々)、補助金の額の確定 富～箱岩橋の間のデマンド型乗合タクシーの運行 運行委託契約、補助金交付決定、運行状況による補助金の支払い、補助金の確定	民間バス事業者の路線撤退により、通学、通院や買い物などに利用する公共交通機関がなくなったことから、乗合タクシーの運行を開始した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 富地域住民	→ ア 富地域の住民数	人	見込 実績	620 583	620 568	560 551	540	540
イ 運行事業者	→ イ 運行事業者数	社	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	1
ウ	→ ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 交通手段を確保する	→ ア 路線数	路線	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2
イ 運行の継続	→ イ 運行回数(勝山線・箱線)／一日	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2
ウ 多くの人に利用してもらう	→ ウ 利用者数(勝山線+箱線)	人	目標 実績 達成率	2,000 1,786 89.3%	2,000 1,260 63.0%	2,000 547 27.4%	2,000	2,000

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 路線の維持	→ ア 運行回数(勝山線・箱線)	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2
イ 補助金の支払い	→ イ 補助金の支払回数	回	目標 実績 達成率	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12	12
ウ	→ ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 02		項 01		目 06		予算上の事業名					事業番号			
	一般会計		総務費		総務管理費		企画費		乗合タクシー運行対策事業費								
	30 年度 実績	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 見込	4 年度 見込	前年比	決算 (千円)	30 年度 実績	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 見込	4 年度 見込	前年比	00268			
国庫支出金							国庫支出金										
県支出金							県支出金										
町 債	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		町 債	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000					
その他特財							その他特財										
一般財源	534	2,280	2,978	2,845	2,845	698	一般財源	267	856	839	2,845	2,845	-17				
合計	5,534	7,280	7,978	7,845	7,845	698	合計(A)	5,267	5,856	5,839	7,845	7,845	-17				
財源名称	過疎債						従事正職員人数		1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間		20	20	20	20	20				
							人件費計(千円)(B)		68	70	67	67	67	-3			
最終予算額		7,978 千円		予算執行率		73.1%		トータルコスト(A+B)		5,335	5,926	5,906	7,912	7,912	-20		
主な 支出事業内容 (予 算)	補助金						7,978 千円		主な 支出事業内容 (決 算)	補助金						5,839 千円	

事業番号	00268	事務事業名	乗合タクシー運行対策事業費	所管課名	まちづくり課
------	-------	-------	---------------	------	--------

#### 4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
勝山便は中鉄美作バスの撤退により、乗合タクシーの運行を開始。主に高校への通学や通院に利用されているため、年度によって利用者数に大幅な増減がある。箱線については、令和元年10月より上齋原-マルナカ線の毎日運行に接続するため、月～土の週6日(一日2便)運行に増便した。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
補助金を受ける事業者の営業努力を高めるため、平成21年度からはインセンティブ方式に変更した。箱線については、国土交通省が毎年公表する30分時間制運賃(自動車認可運賃単価)を適用して補助金を設定し、交付する。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
勝山便については特になし。箱線については、行き便(箱岩橋10:01)と帰り便(箱岩橋15:12)との間隔が5時間もあり、買い物だけの場合など時間をつぶすのに困るとの声がある。

#### 5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	富地域住民の、真庭市・町中心部・津山市方面への移動の確保を図るためのものであり、施策である「公共的 交通機関の充実」に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	赤字路線であり、事業者の参入は見込めないため、自治体として移動手段を確保する必要があるため、公費投 入は妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	主な利用者は富地域の住民であるが、すべての住民を利用対象としており、住民の移動手段を確保するた めのものであり、意図も適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	利用者数が減少してきているが、その要因としては高校生の減少と、朝、ター便運行の不便さが考えられる。 ただし、費用対効果の観点から単純に便数増便などの手段を講ずることは難しい。 箱線は、徐々に住民に浸透してきているが、利用者の固定化と行きと帰りの便の間隔が5時間あることから、利用者が伸び悩んでいる。 一層の周知が必要と考えている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	真庭市方面への便がなくなり、住民の移動が制約される。また、移動に際しての経費負担が重くなる。 箱線は津山市方面への新たな公共交通機関であり、なければ住民の移動と経費負担が制約される。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	現在の委託の中で運行することが、経費的に見ても最善であるし、運輸局への申請なども事業者が行うため、町としては最小限の事務経費 でとどめている。しかし、補助金の算定方法は見直し時期とみられる。また、箱線の週6日の運行方法についても、検討が必要と考える。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	町としては最小限の事務経費でとどめている。しかし、補助金の算定方法は見直しを検討する余地がある。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	職員1名が兼務で業務を行っており、これ以上の削減は難しい。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	富地域住民の移動の確保策であり、受益者は富地域に限られる。 しかし、費用負担は発生しており公平・公正である。

#### 6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	勝山便(やませみ号)は、真庭市方面への通学の足となっており、年度ごとの高校生の数により利用者数の増減が大きくなるが、令和元年度は前年度比で大きく減少した。 富～箱線は、令和元年10月より週2日運行から週6日運行に増便したが、利用者が固定化されており1回あたりの利用者は増便に見合った増加につながっていない。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		<p style="text-align: center;">今後の改革改善案</p> <p>勝山便は高校生の唯一の移動手段であるので、維持する必要がある。 箱線は、要望の割に利用者が伸びず、使い勝手が悪いことが一因である。 行きたいときに行きたい場所に行けるような仕組みを検討する。</p>																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
費用対効果の問題をどうクリアするか。																									